

なのはな

NPO法人 なのはな

◇あおぞらキンダーガーデン

◇まほろば

◇わとと・あおぞら

〒420-0961 静岡市葵区北226-1

TEL/FAX 054-246-2213

E-Mail : aozora@shizuoka.tnc.ne.jp

npo-mahoroba@uv.tnc.ne.jp

URL : <http://www4.tokai.or.jp/nanohana/>

～あこがれが輝く時～

11月に親達にお伝えしたおたよりです。

運動会の時、そらぐみがやった鉄棒に興味を持ったのでしょね。たいようぐみで10月頃から鉄棒で遊ぶ子ども達が多かったです。

そんな中、M「見てみて、逆上がりできた！」と呼びに来て、嬉しそうにやってみせてくれました。そして11月に入りM「TちゃんとYちゃんがもう少しなんだ」と事務室に来て言うので「うれしいね」と答えていました。それからまた日がたった昨日(11日)

M「もう少しなんだよ。見せてあげるから来て」の声に誘われていくとKちゃん、Tちゃん、Yちゃんが前より上手になり本当に「もう少し」なのです。何回かやるうちになんとKちゃんが出来て、みんなで拍手。そうしているうちにTちゃんも出来て、何回もやり、Tちゃんの顔は、まっか。興奮声で「出来る楽しくなっちゃうんだよね。Tちゃん鉄棒楽しい」Y「そうなんだよ」保育者「そうだよ。竹馬と同じだね」と言うと、あとちょっとで完成する逆上がりに又挑戦するYちゃん。そこへ、Hちゃんがやって来て、H「あたしもう少し。みてて」と挑戦。10回ほどやったらなんと「できた!!」と周りが大騒ぎ。Hちゃんも興奮顔。それをじとみていたそらぐみのKちゃん「やってみる!」

何回もやっているうちに出来て「すごい!Kちゃん」とたいように言われKちゃんも本当にうれしそう。でもちょっと疲れて手を離し背中から落ちてしまったのですが、泣きやむと又挑戦しているKちゃんでした。

出来る力を「なまやむれ」から離れた所で獲得したとしたら【できると楽しくなっちゃうんだよね】という宝石のような言葉は、生まれないでしょう。出来る力は楽しいからこそ【もう1回!】という挑戦する、意欲的な心を育てます。

・子育ての中で、追いたてる言葉を沢山かけていませんか?・楽しさからかけ離れたところで頑張らせていませんか?

帰りがけママに見せようとやったのに出来なくて悔しいとなくHIに「Y。明日来たらずーとあさから鉄棒練習するんだあ〜」と声をかけてます。

憧れをもって楽しく生活する、保育を創る事の大切さを子ども達は、教えてくれてますね。大人も子どもに負けないよう輝きたいですね!!

その後、Yちゃんも、逆上がりが出来るように今は、鉄棒に興味を持ったTくんに「そうそう、おそらにあしあげるんだよ」と声をかけながら逆上がりを楽しんでいます。そんな中「みてみて、できたよ」とSくん。Sくんは、最近鉄棒に興味を持って、初めて出来たわざを見せにきてくれたのです。「自分の出来る喜び」を体中で表し喜んでいるSくんの姿は、もちろんですが、その喜びを「伝えたい」と言う心に感動です。

子どもが輝く時は、大人にも喜びを運んでくれます。そんな時、この話を出版社(ひとなる書房)の名古屋さんに話したら「希望の持ちづらい現状だからこそ大人達は、今子ども達に教わる事が大切でしょうね」と伝えてくれました。

12月の冬空に輝く星のような

子どもの輝きを忙しさの中で、みのがしませんように。

おとなの輝くチャンスを手放しませんように。

ゆっくり過ごしましょう!

(おか)

あおぞらだより

地域の人に包まれて

～1, 2歳児のさんぽ～

お散歩途中、行き交う人たちと「こんにちは」と声かけ合う子ども達。すると「かわいいね～。何歳？」と聞かれたり、自分からも「Aは、〇〇だよ」と名前を伝えることもある子ども達。

また、「動物園いく～」 「ミミズがいた」 「おかあさんと～」 等等保育者が通訳しながら会話が成立。嬉しくて話が止まらない時もあるほしぐみ(2歳児)。

ある時には、「ほら みかん食べな」とお仕事の手を休めて持ってきてくれたり、子ども達が棒を持ってちゃんばらごっこ(?)をやる相手になってくれたりもあるのです。

「あら 嬉しいわ～ 元気になれるよ」と自転車を引いてお散歩につき合ってくれたりもあるのです。

ご迷惑をかけてしまうこともあったり、ある意味『子どものことだから』では、済まされない厳しい難しいこともあるのですが、それらを含めて毎日の関わり(地域)の中で暖かく見守られていることは、とてもうれしく思います。

そして、改めて、子どもは、社会の宝であると感じます。

行き交うそこに笑顔あり

皆様ありがとうございます。

(イナバ)

まほろばの部屋から

ことばの力

言葉が少し早く出始め、わりとはっきり喋るわが息子を見ると他のママ達から言われることは、「何か習い事している?」「幼児教室いつているの?」でした。そんなことは無縁です。たまたま早かったのかもしれませんが。でも「話しかける」ことは、意識したように思います。今なら公演で落ち葉を踏んで「カサカサダネ」「ギュギュだね」その落ち葉をまきちらし「ワーだよ」真似しやすいように擬態語で。一緒にやって、やったことを言葉にする。その繰り返し。

(あきこ)

わとと・あおぞら

「こんにちはー」とドアを開けて利用者さんが入ってきました。「いらっしゃーい、こんにちはー、さむかったねえ」とスタッフが応えると続いて「今日は、友達連れてきたよ」って後ろに新しい親子の姿がありました。わととは、利用者さんが、友達を誘って来てくださることが多く、いつも感謝です。

子どもたちを、真ん中にいつのまにかおしゃべりがはずみ、まわりのみんなと溶け込みお昼もわいわいしながら食べている姿は、楽しそうで素敵です。

「お茶を飲めるなんていいね。」

「あかちゃんが、のびのびできるね」

「ここって、木のおもちゃがいいね、あたたかいね。」

「裁縫・ヨガ・みかんジュース作り・・・いろいろ楽しそう」

などなどの話声が聞こえてきて、嬉しさと感謝の気持ちがいっぱいになるひととき。これからも、子育て中のママ達が幸せになる【居場所】としてのおだやかあったきわととづくりをしていきたいと思っています。

<せり>

友達と見る絵本



ころころころ / 本永正永 福音館書店

この絵本は、小さな色玉が、ころころと会談道を上り下り 赤い道 でこぼこ道 坂道 嵐の道

山道 くもの道 すべり台 いろんな道をころころ転がっていただくだけの絵本。

セリフも「ころころ」だけ。終わりに「しゅうてん」で色玉が止まります。とっても単純な本だと思いますよね。でも読み手がいろんな道を通って行く色玉になって声のトーンをかえていき(ころころ ころころ ころころ) スピードも変えいき、肩も揺らして弾ませていくと、子ども達も一緒になって真似しながら見ている、大人も子どもも色玉がいろんな道を通っていくのに共感でき体感できるんです。

楽しくて「もう1回!!」「もう1回!!」のリクエストが多いころころころの絵本。

読み手のいろいろなころころを親子でも、園でも楽しめます。

自分なりに、我が家なりに楽しんでみてはどうでしょうか。

心も弾むこと請け合いです!!

(みなこ)

NPO法人なのはな (あおぞらキンダーガーデン・わととあおぞら・まほろば) 講演会

■ 日程 平成23年2月19日(土曜日) 午後14時~

子どもの発達に共感する時

~支援や実践を考える視点~

2010.5月に出版された「子どもの発達に共感する時」の題名でお話していただきます。いつも子どもに優しい眼差しを送られている先生のお話は、子どもをいとおしく思い大人を優しい気持ちにさせてくれます。ぜひご参加ください。

講師 神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授

木下 孝司 先生

■ 会場 静岡県男女共同参画センター あざれあ 大会議室